

進路実現を支援するための

PTAの特色ある活動事例

進路対策に係るPTAの取組として、模擬面接や職業講話等の講師、企業・大学見学会の実施、あるいは進路に関する研修・講演等の勉強機会の設定など、多くの事例を持ち寄ったところだが、中でも特色があり、参考となるものを紹介したい。

行政と連携した取組例

県教育委員会との共催による研修会 (青森県高P連進路対策委員会)

地域産業と学校の連携推進フォーラムを開催し、講演と表彰(インターンシップ等への協力企業の表彰)を行っている。

- * 学校・地域・家庭の連携によるキャリア教育の更なる充実に向けて、関係者が一堂に会するフォーラムで、地域からの教育支援の在り方、若年層の県内定着、学校と地域や企業の連携・協働による人材の育成について考えようとする取組です。

県商工労働部との共催による研修会 (福島県高P連進路対策委員会)

高校生の保護者、大学生を対象とする講演会及びパネルディスカッション(特色ある地元企業の経営者による)を行い、地域の特色の理解を図っている。

- * 地域の産業を育て地域の活性化を図るためには、地域の理解と協力、若い人材の育成が不可欠であり、その特色や強みをまずは影響力の大きい保護者と戻って来て欲しい大学生に知ってもらおうとする取組で、地域持ち回りの展開について検討している。

講話1 「人生の生き方の実験」～答えのない研修を通じて人生のすべてに通じる、生きる姿勢と折れない翼を身につける～

株式会社アポロガス社長 篠木雄司 氏

■ アポロガスの新人研修

「まんじゅうプロジェクト」「ラジオパーソナリティー研修」「表彰エントリー研修」「1日体験警察官」「地域のロールモデルを考える研修」…、毎年100本を超えるメニューがアポロガスの新人研修には並びます。(次々紹介されるユニークな研修の内容は省略)

例えば「ラジオパーソナリティー研修」は、コミュニケーション力を養い、タイムマネジメントの研修になります。ゲストとの交渉から原稿づくりまでを一人で経験させ、自ら考え実行できる力の養成を目指しています。いずれも答えのない研修で、これらを通して人生のすべてに通じる生きる姿勢と折れない翼を身につけて欲しいと願っています。

今の小学生が大学を卒業するとき、その65%は現在地球上に存在しない仕事に就くといわれます。存在しない仕事に対する準備は難しい。会社にとれる最大の戦略は、いい人材を採用してきっちり教育すること、これしかないと思うのです。

■ 人生の生き方を伝えるための実験

コップに手を触れずにコップを水差しの水で一杯にする実験です。Yさんは難なくコップ一杯の水を注ぎました。(篠木社長は一気に水を飲み干し、コップを空にしました。)続いてSさんにも同じ問題です。(しかし、篠木社長はコップの口を下に伏せてしまいました。)目の前にあるものは同じでも、Sさんはどうにも水を注ぐことはできません。

これで伝えたいことは、コップの容量は各人が持つ能力で、コップの口が上を向いているか下を向いているかは人の心のあり方です。心が上を向いている状態、すなわち、素直な状態、プラス思考の状態だと周りの人が水を入れようとするとき入る。しかし、コップが下を向いている状態、心が下向き、マイナス思考や素直でない状態だと、水を入れようとしても一切受け付けません。これは学校でも社会にも出て、人生を素直な心で前向きに生きることの大切さを伝えるものです。

これは、私のオリジナルの実験ですが、森信三先生の「修身教授録」の一節にある「下を向いているコップを上に向けてくことが教育の神髄である」からヒントを得たものです。やらされ感でやる場合の吸収力と素直な形で前向きに生きようとするときの力は明らかに違うと思います。

単Pにおける取組例

保護者によるパネルディスカッション (秋田高校)

PTA総会時に、3月に卒業した生徒の保護者が現役生の保護者に向けてパネルディスカッション(パネラーは保護者3名、教員1名、コーディネーターはPTA会長)を行っている。

子どもの進路実現に向けた親としての関わり等のテーマについて、約1時間にわたり経験談やアドバイスを述べ合う機会となっている。(この取組は3年目で、総会には約7割の保護者が出席するとのことである)

就職・進学等の出陣式・激励会への参加 (山形県内の各高校)

就職試験やセンター試験を前にした激励会等にPTAも参加し、会長が励ましの言葉を述べるところが多い。さらに、保護者たちが餅をついて受験生に振る舞ったり、合格まんじゅうを配るところも多く、PTAが生徒と一体となって士気を高め目標を達成しようとする取組が受け継がれている。

県連進対委の取組例

持ち回りの「進路だより」の編集・発行 (宮城県高P連進路対策委員会)

県連進路対策委員会の「進路だより」を年3回(10~12月の3回)、1号を2校で担当し、それぞれA4版2頁のリーフレットを作成し、県内全公立高校に配布している。

- * 編集担当校の進路対策に関する取組の紹介等が主であるが、手作り感あふれる紙面から参考となるものを得ることも多い。

進路に関する調査と研究・発信 (岩手県高P連進路対策委員会)

27年度:各地区ハローワークへのアンケート(各業種の実態・実情について)、28年度:企業へのアンケート(会社が求める人材について、新規卒卒者の離職率について)、29年度は前年度までの調査データに基づく講演を実施するとともに、座談会において意見交換の内容をまとめ、リーフレットとして各高校に配付している。

- * 計画的かつ息の長い取組で、保護者と生徒のために役立つ内容という視点を保ちつつ進路に係る情報の収集・分析と対策等の発信を行っている。

講話2 「新しい学力観等の教育をめぐる動向と福島県の対応について」

福島県教育庁高校教育課指導主事 梅野克也 氏



■ 子どもたちの現状と保護者の役割

「進路目標」が決まっていない私はだめな子? 保護者の皆さんが自分のことを振り返ってもむしろ「進路未定」は自然なことであり、「迷い」と「不安」を肯定してあげることも大切で、「進路が決まらない」というのも選択肢として受け入れなければならない。

子どもたちにとって進路に関する相談相手は、圧倒的に母親であるとの調査結果がある。しかし、とかく進路のことになると、制度や仕組みが常に変化して親が的確な情報を持つことが難しく、つい「あなたの好きなようにやりなさい」と答えてしまいが、その声掛けは、子ども

にとって効果的なのか?本当に子どもたちはその言葉を待っているのか?

■ 「やる気」とは何か?～「やる気スイッチ」はどこにある?～

自己肯定感、目標の明確化、手段を目的に応じて講じることが「やる気」につながるものと考えられるが、その「やる気」を高めるにはどうしたらよいか。そこには親子(家族)の対話、将来についての対話、そして現在についての対話、これら子どもたちは求めている。

このとき保護者の皆さんは子どもをコントロールではなくファシリテート、教員もティーチングからコーチング、「否定」「禁止」「命令」から「傾聴」「承認」「提案」という姿勢を持つよう留意すべきであると考えます。

- * 「頑張る学校応援プラン」等の福島県教委の中期戦略については、省略いたしますので福島県教委のHPを御参照ください。